

◆日根野聖子 選

小西昭夫先生が、今年一月に句集『チンピラ』を出版されました。その「チンピラ」シリーズの俳句とコメントの最新作です。本紙にて初公開です。

「チンピラVI」

小西昭夫

枇杷むいて枇杷食べ枇杷の種三つ

これがリアリズムです。

こんばんは。桃は冷してありますか。

こんな客が来たら困りますね。

左右から聞こえる鼾（いびき）夏の山

宇和島の成川溪谷休養センターです。左は東英幸さん、右には岡本亜蘇さんが寝ていました。

何もかも冷蔵庫へと入れにけり

なぜか食べ物以外のものでも守ってくれるような気がして安心するのです。

うな重を食って中日ドラゴンズ

どういうわけかこんな句が出来ました。

秋刀魚焼く妻は元気で今日も留守

昔は「夫は達者で留守がいい」と言われたのですが、今は…。

天高く血圧もまた高めなり

医者からはいつも痩せろ痩せろと言われます。

猫じゃらしおじおばいとはどこまご

その中には父母も兄弟も祖父母もいます。もちろん友だちも。

毎年のことよ酷暑と思うのは

子規にはお母さんの言葉をそのまま俳句にした「毎年よ彼岸の入りに寒いのは」という句があります。これは、ぼくの場合です。

品書きは特上のみの鰻かな

ぼくは並で十分です。

枝豆があれば事足る男たち

冷奴も好きですが。

神主にもらうどぶろく秋まつり

神主は、実は同級生なのです。

白菜は立派それほどでもないぼくら

ぼくはやっぱりリアリストです。

何よりの馳走は闇や闇汁会

是非一度やってみてください。何を食べてもおいしいです。

柿吊るすとなりに洗濯物吊るす

日本の秋の風物詩に現実をプラスしました。

冷え性を口実にする新走り

新走りとは新酒のことです。もちろん、ぼくは冷え性ではありません。

義士の日の義理と人情と肩凝りと

義士の日は赤穂浪士が吉良邸に討ち入った十二月十四日です。

職業なしもちろん年末賞与なし

職業欄に無職と書くことにも慣れました。

すぐ伸びる鼻毛切るなり漱石忌

いつの間にか伸びています。

鰭酒や尾鰭に背鰭胸鰭も

話はすぐに大きくなるものですが…。

おかえり、寅さん。いい正月だ。

久しぶりの寅さん映画でした。浅丘ルリ子も夏木マリも年を取っていましたが、渥美清さんだけは昔のままでした。

小町から賞味するべしひめ始め

「ひめ初め」にはいろんな意味があります。食べ始めの意味もあります。一番有名なのは新年最初のまぐわいです。小町は美人の代名詞ですから美人の女性を連想しますが、この句の女性は違います。

着膨れしごとく鮫鰯吊るされる

吊るし切りにされる鮫鰯はもちろん裸です。

校庭の桜見ている授業中

授業というのはだいたいそうですが、先生の話は頭に入りません。

今穴を出たのが百匹目の蟻か

一、二、三、四、五、六、七、八…。数えています。

嘴の黄色いカルガモとぼくと

嘴の色だけで、カルガモに親しみを覚えてしまいます。

屈伸のあとの尻もち春が来た

新型コロナウイルスの日々、ストレッチも大切です。

間が持たぬ二人のバレンタインの日

恋の始まりです。この初々しさが素敵です。

干せばすぐ乾くパンツや夏の雲

何といういいお天気でしょう。

わが妻が子には母なりカーネーション

同じ人間なのですが、人はいろいろな役割を生きています。

ステーキの横のパセリの気分かな

小西昭夫さんの自画像なのでしょう。

結論でございます。

チンピラの君もマスクをしておりぬ